

みずほマーケット・トピック(2022年11月25日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

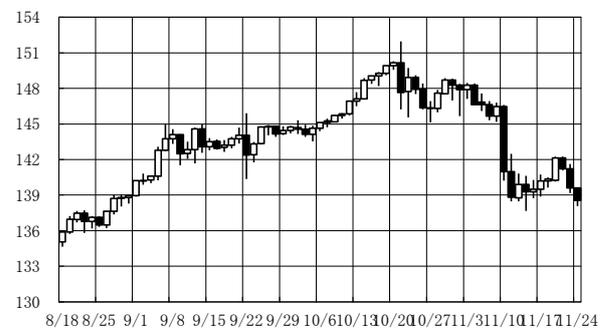
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル円相場は週後半に下落、軟調推移となった。週初21日、140.28円でオープンしたドル/円は、中国における新型コロナウイルス感染者拡大を受けた中国元売り・ドル買い相場の中、140円台後半まで上昇した。海外時間はドル買い相場が続く中、一時週高値となる142.25円まで上昇した。22日、ドル/円は朝方に再度週高値まで上昇も、その後は米金利低下とともに142円を割った。海外時間は、ドル売り相場の中じりじりと低下し、141円台前半でのレンジ推移となった。23日、ドル/円は朝方一時140円台まで下落するも、その後はドル買いが優勢となり141円台前半でじりじりと上昇した。海外時間は、米新規失業保険申請件数や米11月PMI(速報)が市場予想対比で軟調な結果に終わり景気後退懸念が加速したことに加え、11月FOMC議事要旨において近い時期での利上げペース鈍化が支持されたことを受け米金利は低下し、ドル/円も139円台半ばまで下落した。24日、ドル/円は前日からのドル売り相場が続く中、138円台後半まで下落した。海外時間には、一時8月以来の水準となる138.05円まで安値を更新したが、ドル売り一巡後は138円台後半を回復した。本日のドル/円は引き続き138円台後半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは週半ばに上昇、堅調推移となった。週初21日、1.0332でオープンしたユーロ/ドルは、ドル買い相場の中、原油価格上昇を受け域内のエネルギー供給不安を嫌気したユーロ売りが強まったことも相まって一時週安値となる1.0223まで下落した。22日、ユーロ/ドルは米金利の低下に伴うドル売り相場の中、1.03台を回復した。23日、ユーロ/ドルは市場予想対比で軟調な米経済指標や、利上げペース鈍化が支持された11月FOMC議事要旨の内容を受け米金利低下とともにドルを手放す動きが強まって、先週に続き1.04台を回復した。24日、ユーロ/ドルは前日からの流れが続く中、一時週高値となる1.0447まで上昇も、その後はドル売りが一巡し、1.04を挟んだレンジ推移となった。本日のユーロ/ドルは引き続き1.04付近での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		11/18(Fri)	11/21(Mon)	11/22(Tue)	11/23(Wed)	11/24(Thu)
ドル/円	東京9:00	140.43	140.28	142.09	141.16	139.25
	High	140.49	142.25	142.25	141.62	139.60
	Low	139.63	140.17	141.10	139.16	138.05
	NY 17:00	140.40	142.13	141.21	139.59	138.65
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0360	1.0332	1.0245	1.0311	1.0419
	High	1.0395	1.0333	1.0308	1.0405	1.0447
	Low	1.0314	1.0223	1.0240	1.0297	1.0382
	NY 17:00	1.0326	1.0241	1.0303	1.0395	1.0411
ユーロ/円	東京9:00	145.53	144.90	145.58	145.43	145.09
	High	145.53	145.62	145.71	146.10	145.20
	Low	144.60	144.36	144.90	144.65	143.68
	NY 17:00	144.90	145.50	145.48	145.05	144.27
日経平均株価	27,899.77	27,944.79	28,115.74	-	28,383.09	
TOPIX	1,967.03	1,972.57	1,994.75	-	2,018.80	
NYダウ工業株30種平均	33,745.69	33,700.28	34,098.10	34,194.06	-	
NASDAQ	11,146.06	11,024.51	11,174.41	11,285.32	-	
日本10年債	0.24%	0.24%	0.24%	-	0.24%	
米国10年債	3.83%	3.84%	3.76%	3.69%	-	
原油価格(WTI)	80.11	80.04	80.95	77.94	-	
金(NY)	1,754.40	1,739.60	1,739.90	1,745.60	-	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、1日(木)に11月ISM製造業景気指数の発表を控える。前回10月については、9月の50.9から低下し50.2となり、2年半ぶりの低水準となった。項目別にみると、入荷遅延が9月の52.4から46.8へ、仕入れ価格も51.7から46.6へ大幅に低下しており、供給制約の一層の緩和が確認できた。一方、新規受注は9月の47.1から49.2と上昇も、依然として50割れの水準であり、FRBの利上げの効果が出つつある内容となった。なお、ブルームバーグの事前予想では、10月の結果を50.0となっている。

また、2日(金)には11月雇用統計が公表予定。前回10月は非農業部門雇用者数が+26.1万人(前月比、以下同様)と9月からは伸びが鈍化も、市場予想の19.3万人を上回る結果だった。民間サービス部門が+20.0万人で、医療部門や専門サービス部門、娯楽・宿泊部門など幅広い業種で増加も、伸びは鈍化。財部門も+3.3万人と伸びは鈍化。政府部門は+2.8万人と増加に転じた。ただし、失業率は3.7%と9月から上昇し、市場予想の3.6%を上回った。一方、労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)は就業者数の減少を背景に62.2%と2か月連続の低下。また、平均時給は+0.4%(前月比、以下同様)と9月から加速し、市場予想の+0.3%も上回った。強弱入り混じるも、労働市場逼迫の継続を確認できる結果だった。なお、ブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者数を+20.0万人と見込んでいる。失業率については3.8%、労働参加率は62.3%、平均時給は+0.3%の予想となっている。
- 欧州では、30日(木)にユーロ圏11月消費者物価指数(HICP、速報)が公表される。前回10月の結果(確報)は+10.6%(前年比、以下同様)と速報時点の+10.7%からは下方修正も、統計開始以来初の2桁の伸び率を記録。エネルギー、食料品、アルコール、タバコを除いたコアベースでも+5.0%とこちらも騰勢を維持した。インフレ高進の主因はエネルギー価格高騰ではあるが、食料品や工業製品等財価格の上昇も顕著となった。国別で見ても2桁台のインフレ率を記録した国が散見され、急速なインフレによって実質所得が悪化し、それが個人消費へと波及することが懸念される状況となっている。

	本 邦	海 外
11月25日(金)	—————	・独7～9月期GDP(確報)
28日(月)	—————	—————
29日(火)	・10月失業率/有効求人倍率 ・10月小売売上高	・米11月コンファレンスボード消費者信頼感指数 ・ユーロ圏11月消費者信頼感指数(確報)
30日(水)	・10月鉱工業生産(速報)	・ユーロ圏11月消費者物価指数(速報) ・米7～9月期GDP(改定値) ・米10月JOLTS求人数 ・米ページブック公表
12月1日(木)	・11月製造業PMI(確報)	・米10月PCEコアデフレーター ・米11月ISM製造業景気指数
2日(金)	—————	・ユーロ圏10月生産者物価指数 ・米11月雇用統計

【当面の主要行事日程(2022年12月～)】

FOMC(12月13～14日、1月31～2月1日、3月21～22日)

ECB政策理事会(12月15日、2月2日、3月16日)

日銀金融政策決定会合(12月19～20日、1月17～18日、3月9～10日)

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年11月24日	投機ポジションで見るドル・円・ユーロの概況
2022年11月22日	消費増税以上の威力を示した40年ぶりのCPI
2022年11月21日	最高難度の局面に挑むECB～多様な「不況下の物価高」～
2022年11月18日	週末版(本邦7～9月期GDPを受けて～購買力の悪化は悲惨な状況～)
2022年11月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年10月分)
2022年11月16日	FRBは今、何を考えているか?～蘇る平均インフレ目標～
2022年11月15日	実質ベースで考えるドル/円相場のオーバーシュート
2022年11月14日	ユーロ相場の現状と展望～金利・需給面の整理～
2022年11月11日	週末版(2022年度上半期の経常収支状況を受けて～所得収支の還流が最後の手札～)
2022年11月10日	金利面から見たドル/円相場の現状と展望
2022年11月9日	ユーロ圏経済の近況について～スタグフレーションの淵～
2022年11月4日	週末版
2022年10月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～政策間の整合性が問われる状況に～)
2022年10月27日	ECB政策理事会プレビュー～再投資の行方～
2022年10月25日	製造業の国内回帰報道をどう理解するか?
2022年10月24日	圧倒的なファンダメンタルズ～円高は押し目という新常識～
2022年10月21日	週末版(半分になった円の価値～150円到達で何を思うか～)
2022年10月19日	天然ガス価格上限設定について～史上最も厳しい冬～
2022年10月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年9月分)
2022年10月17日	通貨高競争の足音～G20議長総括から何を学ぶか～
2022年10月17日	トラス英政権の軌道修正～機能した市場のアラーム～
2022年10月14日	週末版
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえず利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃を前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか?
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)
2022年9月20日	EUは冬を乗り切れるのか～結局、節電頼み～
2022年9月16日	週末版
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本当にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて
2022年8月26日	週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)
2022年8月24日	水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～
2022年8月23日	パリテ割れと欧州のインフレ動向について
2022年8月22日	顕著になる鎖国政策の副作用
2022年8月19日	週末版
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場
2022年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年7月分)
2022年8月15日	本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～
2022年8月15日	独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～
2022年8月12日	週末版
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか?
2022年8月5日	週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)
2022年7月29日	週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)
2022年7月27日	IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか?
2022年7月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)
2022年7月20日	ECBは7月+50bp利上げに舵を切るのか
2022年7月19日	パリテ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)
2022年7月14日	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でこざるインフレ抑制～)
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版(世論に動き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～)
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECBハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グローバル化構想～遂に始まる加盟国の階層化～)
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑念的な通貨危機の様相を呈する日銀運営
2022年6月17日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年5月分)
2022年6月14日	FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～
2022年6月13日	悲惨指数を感じなかった日本人
2022年6月13日	米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来
2022年6月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も赤燈～)
2022年6月9日	黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～